

「あきたこまち R」をめぐる国際対話（オンライン）にご参加を

2025年11月25日、国際有機農業運動連盟（IFOAM）は、日本で生産・流通が進む「あきたこまち R」について、国際的な有機農業の原則に適合しないとして、海外12カ国13団体と連名で、日本の関係機関宛に書簡を送付しました。「あきたこまち R」は放射線育種により開発された低カドミウム米で、秋田県では急速に置き換えが進んでいますが、その手法や影響をめぐり、国際社会との真摯な対話が求められます。本オンライン会合では、IFOAM書簡の背景を共有し、日本と国際社会の認識や制度の違いを整理します。有機農業の原則、消費者の選択権、市場の透明性、国際的整合性などの観点から議論し、今後の建設的な国際対話につなげることを目的とします。2026年3月下旬（予定）

◆講師登壇者プロフィール

David Gould 氏 (IFOAM Seeds Platform事務局長)

有機および持続可能なフードシステム分野において30年以上の経験を有しています。マサチューセッツ工科大学（MIT）で生命科学の学位を取得し、食品科学、生化学、微生物学を専門的に学びました。

これまで長年にわたり、有機基準、実践、政策、認証制度の発展において重要な役割を果たし、現在、IFOAM Seeds Platform の事務局長を務めるほか、Organic Food System Program 運営委員会の委員ならびにOMRI (Organic Materials Review Institute) のアドバイザリーおよびレビューパネルのメンバーでもあります。また、IFOAM-Organics International のシニア・ファシリテーターとして7年間活動し、その間有機農業のベストプラクティス・ガイドラインや「Organic 3.0」の策定を主導しました。

さらに、育種技術やGMO（遺伝子組換え生物）に関する世界的な立場の整理、水産養殖分野に関する議論にも中心的に関わってきました。現在は、既存の制度や仕組みに対する監督・助言を行ふとともに、持続可能なフードシステムの発展に向けた新たなイノベーションの推進に注力しています。有機分野にとどまらず、さまざまな社会的・環境的認証制度、民間企業、政府機関とも直接協働し、組織戦略、リスク評価、ステークホルダー・エンゲージメント、基準および政策の策定、保証・認証システム、影響評価、人材育成、キャパシティ・ビルディングなどに関する支援を行ってきました。



David Gould 氏

印鑰智哉（いんやく・ともや）氏 (OKシードプロジェクト事務局長)

世界の食と農の問題を追う。アジア太平洋資料センター（PARC）、ブラジル社会経済分析研究所（IBASE）、Greenpeace、オルター・トレード・ジャパン政策室室長を経て、現在はOKシードプロジェクト事務局長。

ドキュメンタリー映画『遺伝子組み換えルーレット』（2015年）、ドキュメンタリー映画『種子—みんなのもの？ それとも企業の所有物？』（2018年）いずれも日本語版企画・監訳。共著で『抵抗と創造のアマゾン—持続的な開発と民衆の運動』（現代企画室刊、2017年）で「アグロエコロジーがアマゾンを救う」、『イミダス 現代の視点2021』（集英社2020）で「種子法廃止について「種苗法改定」で、農家に打撃！？」、『命を守る食卓』（宝島社2024）を執筆。その他、『世界』（岩波書店）などで記事を執筆



印鑰智哉 氏

（提携開催）節水型乾田直播問題を考える院内集会

日時 2026年2月24日（火）16時～

場所：衆議院議員会館大会議室&ZOOMによるオンライン

参加費・無料 主催：節水型乾田直播問題を考える実行委員会

お問い合わせ先：OKシードプロジェクト事務局 <https://save.okseed.jp/contact>